

# イモの苗 5000本植える

バイオマスプロジェクト 鈴鹿で家族連れら

鈴鹿市石薬師町の耕内企業経営者や有志が放棄地で二日、イモを植える「バイオマスプロジェクト」の開催式があった。周辺農地が荒れる要因となる放棄地にイモを植えて活用し、収穫したイモを乾燥して発電や暖房の燃料にする取り組みで、家族連れを含む約百人が参加した。

開墾式には、かつて鶏舎や畑があった耕作放棄地八千平方メートル、四分の一を利用して。あらかじめ耕して作った畝を、草が生えないように黒いビニールで覆って準備。参加者たちは手分けして、三千本ほどのサツマイモの苗五千本をビニールに差すように植えていった。

プロジェクトは、市



サツマイモの苗を植え付ける参加者たち＝鈴鹿市石薬師町で

画。SBVの国吉修司会長は「多くの人が集

(村瀬力)

まり良かった。耕作放棄地を活用しながら美しい緑にする活動を広げたい」と話した。

サツマイモは九月中旬に収穫し、販路に乗らなかつた分を乾燥させてチップにし、燃料に役立てる。

## イモ植え付け 開墾式に100人

鈴鹿・耕作放棄地



耕作放棄地にイモを植え、燃料や食料、飼料、発電などの多面的な利用をめざす「ニューファームプロジェクト事業」の開墾式が

2日、鈴鹿市石薬師町であり、メンバーや一般参加の計100人がサツマイモの苗五千本を20畝に植えた。

メンバーの農園経営者杉本政紀さん(45)らが耕作放棄地をならし、長さ40センチの畝を52本作って黒いシートで覆っておいた。この日は竹べらで畝に穴を開け、苗を一本ずつ参加者が植えていった。家族連れも多く、小学3年の女子は「イモの苗は植えたことがあるけど、大勢だと楽しい」。

事業呼びかけ人の国吉修司さん(60)は「多くの人に来ていただいてうれしい。地球と人に優しい資源の有効活用を考えていきたい」と話した。